

平成 29 年度 第1回東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年8月31日(木)午後1時30分から午後3時00分まで
会場	東区プラザ
出席者	東区自治協議会委員29名(欠席1名) 教育委員:伊藤教育委員、田中教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 中地区公民館長、東区教育支援センター所長 他2名 東区役所:齋藤区長、夏目副区長、清水地域課長、他課長4名 傍聴者: 1名
議事	1 開会 2 教育委員挨拶(伊藤教育委員、田中教育委員) 3 平成 29 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 東区教育支援センター所長)
司会	それでは1つ目の視点での懇談を始めます。先ほどの教育長の説明の中にも、地域と学校が協働する教育についての説明がありましたが、現在の各地域での地域と学校の関わりの状況について、成果あるいは課題と考えられることをご発言していただき、続いて、こういった取組が必要ではないかといったご意見をいただきたいと思えます。では、はじめに皆様の地域での子どもの教育における地域と学校の協働に関しての現状はいかがでしょうか。なお、ご発言の際は、挙手の上、お名前をお願いいたします。
自治協委員	委員をしております大江謙作と申します。よろしく願いいたします。今ほど前田教育長からご丁寧にご説明がありましたが、その点の外部との連携と教員の多忙化にかかわりましてご意見をお聞きしたいなと思っております。よろしく願いいたします。 新潟市は、学校と地域パートナーシップ事業、地域と共に歩む学校づくりで、本当に地域の方々がすごくたくさん入っておられて、大きな成果を上げていると思えます。私も近くの学校を見せていただいて本当によくやったださっているなと思っておりますので感謝申し上げます。その一方で、各学校の教員も一生懸命がんばって、教育委員会学校支援課、教育支援センターのご指導のお陰で、学力が高まり、今回政令市が特に高いですよね。その中でも小学校では国語も算数も1位を占めています。3位の所もありますが、本当に学力も伸びているなと思っております。その一方で教員の多忙化も、今検討委員会を開いているということでもありますけれど、今後また新しい学習指導要領が実施されると、なおさら教科の時間が増えて大変になってきますよね。今いろんな方々から聞くと、担任が休むと担任のクラスの指導とか子どもへの配慮とかで大変ですし、個別の指導を要する子どももいますし、保護者の要望に対応しなければならない、地域の方々がたくさん入っておられるのでその対応まで、いろんなことで学校が忙しくて、なかなか休み時間もとれない

という現状があると聞いています。そんな中で教員をやめたOBの方がNPO法人を立ち上げて、学校には行っておられて、教育委員会も支援しておられるし、賛助会員の方もお金を出して、支援しておられます。それが7月で例をとりますと、その予算の中の倍ぐらいの要請が各学校からあり、すごく多いと。ところがその要請に応じきれずにガソリン代も出せず、断っている状態だといえます。学校を支援するのに、そういう方々の力も借りていく必要があるのかなと思います。そういう意味で、そのような方々の力も借りながら、学校がさらに教育の充実を図っていただければありがたいと思ひまして、教育長さんのご意見をお聞きしたいなと思ひて質問いたしました。

それからもう1点、教員の多忙化とか部活動について検討委員会を立ち上げてやっているということでしたが、差し支えなければその進捗状況とか、いつ頃までを目処に結論を出していくのかということを知りましたら教えていただきたいと思ひます。お願いいたします。

教育長

NPOの元教員の方たちへは、特別支援ですとか担任が不在の時に様子を見ていただくとか、こちらが委託してやっていたりしているものと、こちらの委託ではなくて学校から要望してやっていたりしているものもあって、学校現場からも非常に助かっているという声を聞いています。これだけ学校現場にたくさんのことが期待されている中で、とつても現場の教職員の方だけでは足りませんので、地域の皆さんの力はもちろん、教員OBの方たちの力をお借りできるのは本当になくはないものだと思ひておりますが、なかなか予算的なことになると、何とかしたいと思ひは山々なのですが、ほかのどこかを削って回すということになると、難しいかなというところもございます。できるだけ知恵を出し合つて工夫しながら、学校現場の多忙化を解消して、教員が子どもたちの様子をしっかりと見て、誰もが分かる授業で分かつた喜びが子どもたちの学ぶ意欲につながるよう、授業の工夫とかに教員が時間を割けるようにやっていきたいと思ひます。

多忙化解消とその中から部活動の在り方を取り出して2つ検討委員会を立ち上げていますけれども、部活動については、部活動の実態の調査が終わつたところで、その結果を分析しながら、来年度にはできるように出したいと思ひています。国でも部活動についてやっていますので、そういうのが出てきたらまた変えるというように2段階になると思ひますが、部活動の休みの日をつくるとかということも含めて出したいと思ひていますし、多忙化解消につきましても、今年度学校閉庁日というものを始めましたけれども、すぐにできることがあればスピード感をもってやりたいと思ひております。しかし、教育委員会や学校ががんばるだけでは限界がありますので、その辺も含めて、また国の方でも教員サポート制度のようなものを考えているというような情報もありますので、国の動きも見ながら、活用できるものは活用したいと思ひておりますし、地域の皆様のお力もお借りできればと思ひているところです。

自治協委員

委員の中川と申します。私は藤見中学校の地域教育コーディネーターで、9年目になります。パートナーシップ事業が始まつてから10年を越えて、パイロット校におかれましてはもう11年目ということになりますが、私も9年目ということで、研修を受け

たのですが、最初は何をすればよいのか分かりませんでした。テキストの中には、学・社・民の融合などいろいろ書いてありましたが、実際コーディネーターが何をす
るんだという悩みをもちましたし、学校の現場でも何をやらしてもらえばいいんだという
不安があったんだと思います。いろいろ聞いたり研修を受けたりしていると地域と学
校を結ぶんだというようなこと、それがコーディネーターとしての仕事であり役割なん
だということが少しずつ分かってきました。ただ、結ぶということはどういうことなんだ
ろうとまた疑問に思ってきて、中学校というのは、敷居が高くて地域の人が近寄りづ
らい、ましてや学校の中に入っていくなんてことは、よほどのことがないとできないと
いう雰囲気がありました。そこで、当時の校長先生などと相談して、最初にやったの
は、古い校舎の時代は壁がはげ落ちていた状態でしたので、できる範囲の中で、
地域、保護者、生徒にお願いをして、夏休みにペンキ塗りをしました。プロの方もひ
とりふたりからお願いをして、みんなでやったわけですが、非常にきれいになった、
それがとっかかりで、じゃあ、今度は何をやればいいのだろうか、草刈をやってみ
たりいろんなことをしました。草刈に来てくれる人は、「面倒なことはできないんだけ
ど草刈ならできるよ」って。授業日の日中やるので、なかなか保護者世代は来れま
せんが、地域のおじいちゃんおばあちゃんが「孫がきているんさね」なんて言いなが
ら、一生懸命に草刈をやってくれます。

1時間程度の作業ですが、それが終わってから地域の輪に入ってお茶を飲んで
もらって、学校の中の様子を話をしたりするのというのを続けています。学校からコ
ーディネーターが信頼されて、コーディネーターも学校を信頼して、地域もコ
ーディネーターを信頼して、コーディネーターも地域を信頼する。お互いに信頼関係が成
り立っていくといろいろな事業を展開することができます。

子どもたちは、今まで学校の中での生活が中心としてきたわけですがけれども、今
中学生をもっと外に出しましょうよという、学校の方もそういう考え方をもっています。
地域の大きなイベントに吹奏楽部をお願いしたり、大切な資源のじゅんさい池の整
備などに毎年取り組んでいるというようなことをしています。学校の方から「地域の活
動にお手伝いできますよ」という話がくる、私はその事業をやる地域の組織に話をも
って行って一緒にやろうということになってきます。今、中学生に一番期待されてい
るのは、地域防災なんだろうなと思います。防災教育も中学生だけにちよろちよろと
話をしてもだめで、やっぱり地域としては中学生は発災時の戦力なんですね。中学
生もその意識をもっているんだけれども、どうやって訓練したらいいか分からない。
それはコミ協の中の防災を担当している部署と学校とで相談をしていただいて、そ
の中にコーディネーターは当然入るわけですがけれども、いつ、どんなことを行うかを
話し合っていきます。これも信頼関係が成り立って始めてうまくいくのだと思いま
す。確かに学校の先生は忙しくて、日々走っておられるという状況ですが、そんな
のを見ていると、地域と何かやるといったときに、コーディネーターがそこにいて、
協力することができれば、話をもらえるだけでできるわけで、そういったようなつな
がりを大事にしていきたいなと私は思っています。

コーディネーターが配置されてから学力がどうのこうのとかいう学校もあるようで

し、本来であれば先生方もお忙しいとは思いますが、印刷物もかなりの量があるわけですが、それをコーディネーターがやるというのは、ちょっとちがうと思います。やはり地域と学校をしっかりと、お互いが尊重し合いながらうまくパートナーシップを続けていくというのが本来のコーディネーターの役割、仕事なのではないかと考えます。本来学校でやってきたこと、やらなければならないことまで、コーディネーターに期待されるのは、不安があるかなと感じています。どんどん役割が増えてくる中で、負担に思うコーディネーターも出てくるのではないかなという心配があります。学校ごとに地域ごとにやれることがあって、みんなが同じことをやらなくてもいいし、あそこがこれだけのことをやっているからうちもこれをやらなくてはということとは絶対ないと思っています。あんまり競争させるみたいな言い回しというのはやめてもらいたいなと思っています。

自治協委員

公募委員の山田修平と申します。前田教育長さんには、東区長さん時期に大変お世話になりました。ありがとうございます。質問と若干の意見を述べさせていただきます。

今日の資料の中で木戸小学校の住宅街のど真ん中の学校田の取組を載せていただきありがとうございます。この中で紹介されている長井照男さんという方は、実は20年近く学校のボランティアとしてご活躍されている方です。木戸小学校としてはこういう方が1人いるだけで全然違うんです。学校の宝のようなボランティアの方です。学校の校長さんのスタンスとしても学校を応援してくださるボランティアを1人でも多く大切にしていけることがとても大切かなと思っています。本日もご出席の委員の中にも、ボランティアとして学校に入っておられる方がたくさんおられます。それで1つ課題なのは施設の問題があります。大規模校では、ボランティアの方が来られても教室が厳しいと。打ち合わせをする場所とか、お茶を飲むような場所、それもなかなか厳しいと。あるいは学校職員とボランティアをつなぐコーディネーターの手が回らないということがあります。施設面ではセキュリティの問題などを含めて教育委員会としては対応を進めておられると思いますが、学校ごとに様々な課題があると思います。地域教育推進課さんでそういった学校ごとの課題を把握して、どの学校でも学校をどんどん開いていけるようなご支援をいただきたいと考えています。

それから木戸小学校の事例で申し訳ないんですが、木戸コミュニティ協議会では、学校の応援団になっていただいて、困ったことがあると全面的にご協力いただきました。例えば平成23年の時には3年生の算数の学力が少し低いというのでいろいろ助けていただいて、17名の大学生、保護者、元教師、塾の先生、地域の方から授業の中に入ってもらって、先生の手が回らない子どもへ支援してもらおうということをやってもらいました。子どもたちは本当に大喜びでした。こういう体制はなかなかできないし、こういうノウハウも教育委員会の方で支援の方策として、大江委員から話がありましたが、学校はみな人手不足です。新しい学習指導要領になったら先生方パンクするんじゃないかなと心配しています。ぜひその面でも、学・社・民による教育も非常に成果を上げているとは承知していますが、人手不足、学校スタッフが足りないという点からもまたご支援いただきたいと思っています。

最後に意見の方なのですが、先ほど教育長さんの予算が大変厳しいと、まさにそうなのかもしれませんが、政令市の現状を見ますと他県では区が執行できる予算、権限を与えています。各地域の「ニーズと課題に応える教育行政の創造」、まさにこの問題だと思います。これがただの看板だけに終わらないように、私共も一生懸命にがんばりますが、区に必要な予算について、教育委員会の内部の皆様で議論いただければありがたいと思います。

自治協委員

井上と申します。よろしくお願いいたします。

うちの町内で、今年から町内に住む子どもの保護者にも自治会に参加してもらおうと、4月に集まっていたいで、役割分担を希望を取って行いました。お祭りを手伝ってくれる人とか防災訓練を担当する人とか敬老の会とか文化祭とか花壇等の緑化の手伝いとかに分けて取り組んでみました。花壇の方は5月に花の種まきをやりました、7～8月は担当を決めて散水を行い、それも保護者の皆さんが喜んでやってくれました。夏休みのラジオ体操も7月の末から今月の28日まで、最低でも40人以上の子どもが参加してくれまして、半数以上に参加した子どもには図書券とジュースをやりました、非常に今年は活気がありました。

もう一つは、うちの避難校のトイレの件ですが、車椅子で入れるトイレが1か所ありますが、トイレの大多数が和式なんです。もし災害があったときに私みたいな年寄りにはしゃがんで立ち上がるのは非常に厳しいもので、できれば教育委員会で頑張っていたいで少しずつ洋式化にしていだきたいと思ひますし、文部科学省の発表でも半分以上が簡易トイレの備えなしということでしたので、簡易トイレの備えもよろしくお願いいたします。

自治協委員

教育コーディネーターとコミ協との関係なのですが、うちの場合コミ協というのは小学校には十分尽くせるほど尽くして、今年も防災訓練も一緒にやりますし、行事も手一杯でやっていますが、中学校となると2つの小学校が一緒になりますし、コミ協が2つになります。そうすると中学校というのはどうしてもなおざりになってしまつて、地域の人たちがあまり協力できなくなつて、小学校ほど十分にできない。ですから、その中をとっているのは、以前にも質問したと思うのですが、育成協議会というのがあつて、各中学校区に。その育成協議会は2つのコミ協から出ているんですけど、中学校のコーディネーターとなると全然私たちとは無関係という形で、コミ協への協力とかそういう面であまりしていただけておりません。はっきり言つて。何か頼もうと思うけれども、もううちのコミ協では諦めています。教育コーディネーターというのは、地域と学校を結ぶというのですが、その原点に戻っていただけてやっけていだきたいと思ひます。そして育成協議会というのは、中学校と小学校3校で役員も小・中の校長をはじめ、民生委員とか保護司とかいろいろな方がなつてはいるんですけど、その中でやる行事に対してももう少し協力してほしいと思ひます。何かいろいろやるのにも会話が少ないというのが一番の難点です。

司会

ここまでのパートナーシップ関係についてご発言に対して、地域教育推進課長さん、何かお話することはあつてでしょうか。

地域教育推

地域教育推進課の緒方です。本日は貴重なご意見、ありがとうございます。

進課長

まず中川委員からは、これまでの地域との連携の流れをお話しいただいて、地域と学校を結ぶことが大事で、信頼関係を築くことが大事だという貴重なご意見を頂戴いたしました。地域と学校パートナーシップ事業は10年を過ぎまして11年目になりましたが、やはり中川委員がおっしゃるとおり最初は「何をしたらいいんだろう」というところから始まったのですが、地域コーディネーターの皆さんが地域と学校を結ぶという熱い気持ちで10年間取り組んできました。その成果が、皆様から、「地域と学校が連携し始めているね」という声になっているものと思います。

そのベースになるのは、中川委員がおっしゃるとおり、信頼関係だと私も思っています。これからも地域コーディネーターの皆さんが仲立ちになりながらも学校と地域がお互いに地域の子どもたちのことを考えてどう進めていけばいいのかという話し合いを繰り返していただきながら信頼関係を深めていただければありがたいと思います。

まだまだ十分でないのではというご意見を頂戴いたしました。その課題の部分もぜひ地域、学校、コーディネーターの皆さんが話を出し合いながら、一つずつクリアしていただければありがたいです。なお、地域との連携の取組は、各学校や地域によって違います。隣の地域がこうしているからうちもしなければならぬということではありません。それぞれの地域に課題がありやりたいことがあります。それぞれの学校にも求める子どもたちの姿があります。それは一体何かということを考えながら取り組んでいってほしいと思います。「うちの地域には、うちの学校にはこれが必要だよね」ということを大切にしていきたいなと思っています。

また、地域コーディネーターの役割は、学校職員の仕事の下請けをするものではありません。あくまでも地域と学校をつなぐためコーディネートすることが一番の仕事です。その中で、いろんな人のお話を聞き、調整をし、思いをお互いに伝え合うことだと思っています。

司会

先ほど、小・中関係、特に防災を取り上げてお話しいただきましたが、実は今年度と来年度、中学校区ごとに教育ミーティングを行い、地域と学校が協働する防災教育をテーマに地域の方々と学校との懇談が進めていきますので、そこでも話題にさせていただきます。

自治協委員

二人の教育委員さんから東区に来ていただいたということで、東区自慢をしておきたいと思います。7月17日に東区区民ふれあい祭りというのがございまして、前田教育長も東区におられたのでご存じだと思いますが、今年から中学生とのふれあいコーナーというものを始めまして、石山中学校は美術作品を展示、東石山中はコンピュータ部、茶道部、吹奏楽部、木戸中は音楽部、大形中は美術部、科学部、東新瀨中は美術部がブースを出して、主に小さなお子さんに手取り足取りものをつくらせたりしました。中学生にとっても非常に勉強になったと思います。東石山中学校のコンピュータ部はわりと個性をもっている子が多く、最初は小さい声で呼び込みをしていたのですが、途中から拡声器を私から奪いまして、1日で急成長していました。地域とのふれあいという点において、こういった活動も非常に子どもたちを成長させるいい機会になるのではないかと思いますので、こういった活動を広めていけたらと

司会	<p>思いました。</p> <p>それでは今のご発言も含めまして、1つ目の視点についてのまとめとして、田中委員からご発言をお願いいたします。</p>
田中教育委員	<p>皆様のお話をお聞きして、委員一人一人が学校現場を何とかしよう、子どもたちを何とか力づけてあげよう、そして先生たちの力に何とかなっていきたい、そういう気持ちがヒシヒシと伝わってまいりました。多忙化、あるいは多忙感と言いますが、学校現場の先生方お一人お一人、本当に頑張っておられると思います。東区の先生方も本当に力をかけて頑張っています。子どもたちの喜ぶ顔、保護者の一生懸命に応援する声、それに背中を押されて先生方はさらに頑張ろう、もっとやろう、そういう風な思いで取り組んでいるわけでありまして。それが多忙化、多忙感というところにつながっていったりするかもしれませんが、現在のこの学校の状況を学校だけで何とかすることはもうできないと思います。保護者地域の皆さんが力を貸してくださり、学校を支えていく、地域をあげて学校をさらに盛り立てていく、こういう状況が必要だと思っています。</p> <p>今の田中一昭委員さんのお話ですが、「新潟市東区へようこそ」という東区の自治協議会だよりの第3号で、前の川島部会長さんが紹介されていたんですが、東区を紹介するデジタル紙芝居、ここに載っていたんだと思いますが、その中に中学生が中心になってふれあい祭りをやっているということが出てきて、本当に素晴らしいことをやっておられると感じた次第です。このデジタル紙芝居には、東区の自然であったり文化であったり風土であったり、人々のつながりであったり、すばらしい場面がたくさん出てきます。おじいちゃんおばあちゃん、おとうさんおかあさん、子どもさんというキャラクターが出てきて、東区を紹介するんですね。東区はなんて素敵なおとこだと感じました。残念ながらこれを観た回数が222回でした。もっともっとたくさんの方から観ていただきたいものだと思います。</p> <p>この東区の自治協議会だよりの中で、こういう言葉がありました。「子どもの笑顔は地域の宝。笑顔と元気があふれる地域づくり」こういうフレーズがあります。本当に子どもたちのために地域が一丸となって頑張ろうという気持ちが伝わってくる言葉であります。今新潟市教育委員会ではさきほどの部活動の指導の今後の在り方を含め、さまざまな多忙化解消ということに取り組んでまいりますし、さらにいっそう効果のある施策を示していきたいと考えています。たくさんよいお話をお聞きしました。ありがとうございました。</p>
司会	<p>続きまして、本日のもう一つの協議の柱に移らせていただきます。</p> <p>2つ目の柱は、よりよい地域づくりのために、地域の皆様と公民館や図書館といった社会教育施設や学校とが協働してできることは何かということですので。はじめに東区の公民館と図書館の取組につきまして、中地区公民館の鷲尾館長と東区の図書館を管轄しております中央図書館の三保館長から説明させていただきます。</p>
中地区公民館長	<p>皆さんこんにちは。中地区公民館の館長をしております鷲尾と申します。よろしくお聞きいたします。お手元の資料に基づいて説明いたします。</p>

東区の公民館には、中地区公民館と石山地区公民館がございます。木戸地区に分館がございますが、こちらの方は、基本的に人を配置していませんで、主に中地区と石山地区の公民館で事業を行っています。この2館で、「地域コミュニティ活動活性化支援事業」というものを数事業やっています。公民館では、地域コミュニティ協議会等の地域団体と連携・協力しながらコミュニティ活動の活性化を図り、地域づくりを支援しますという基本的な考えで活動しています。

1番の「コミュニティコーディネーター育成講座」に関しましては、新たな地域活動の担い手を育成、支援するというものです。今年度は、すでに「東区みらいサポーター養成講座」ということで、今年の後半11月くらいから5回連続講座ということで学校支援ボランティアや福祉の現場、あるいは地域の茶の間の運営等を学びながら人材の発掘、育成をしたいと考えています。

2番、「地域コミュニティ協議会との共催イベント」についてですが、住民同士や親子、あるいは祖父母と孫など世代間の交流を通して地域が活性することを目的に、地域団体等と連携してイベントを開催しております。具体的には、「夏子どもフェスティバル」、「子どもや孫と遊べる 簡単、懐かしい！おもちゃづくり」、「親子で笹団子づくり」の3つにつきましては、今年すでに6月、7月ごろに開催を終了しています。

3番ですが、「地域コミュニティ協議会との連携事業」ということで、これは今年度初めて開催したもので、石山地区公民館で、江南、中野山、南中野山、東中野山の各コミ協さんから企画委員を出していただきまして、地域の課題を解決するような地域づくりを目指す事業で、「お互いさまネット石山」という連続講座を開催いたしました。

4番ですが、地域を知る、学ぶ講座を開設しております。「地域のたから再発見事業」ということで、公民館で活動している地域学習サークル「中地区地域楽」と連携しまして中地区への関心を高め、中地区を好きになってもらうため、ということで町歩きイベントあるいはこの地区を取り上げた歴史講座あるいは昔物語みたいな講座を開催しております。今週の区だよりに載りますので、よろしければ是非参加をお願いします。それから「ishiyama いいね！LIFE」ということで、石山の食とか景色を題材として地域や人の魅力を発見し、地域を好きになっていただくという講座を開催いたしました。参加者同士の交流を図って地域の活性化に資するという目的も含んでいます。

最後に5番のその他の「ご近所だんぎ」ですが、暮らしに密着したテーマを外部の講師等からご講演いただいた後、そのテーマについて参加者同士がお茶を飲みながら親しく会話をして地域の課題の解決に資するといったもので、毎月開催をしているものです。交流を重ねることで地域住民のつながりをつくっていくことも目的に入っています。「茶の間の学校同窓会」は、「地域の茶の間」の立ち上げをするための勉強会を昨年開催したのですが、その卒業生でグループを作りまして、その同窓会を何回かやります。皆さんの活動意欲を高めることを目的に開催しているものです。

以上のような活動を公民館では「地域コミュニティ活動活性化支援事業」として行っております。皆様のご協力をよろしく願いいたします。

中央図書館
長

中央図書館長の三保と申します。よろしく願いいたします。

東区には、山の下図書館、石山図書館、東区プラザ図書室、大形地区図書室、シルバーピア石山地区図書室がございます。中央図書館の方で管理・管轄いたしております。

まず、①の資料についてですが、申すまでもなく、図書館ではいろんな資料を取りそろえております。本だけでなく、新聞、雑誌も取りそろえておりますし、CDやDVDもありますし、インターネットも使うことができます。

②のネットワークシステムですが、今の図書館はネットワークシステムによりまして市内のどの図書館から借りてもどこでも返せる。それから予約していただければどこの図書館からも取り寄せができます。それから新潟大学の図書館、県立図書館などもネットワークでつながっていますので、そちらからも取り寄せができますし、日本全国からいろんな資料も取り寄せることができます。

③のイベントですが、読み聞かせということで子育て中のお母様お父様に子どもさんを連れてきていただいて、子どもさんに読み聞かせをしたり、こういう風に読み聞かせるんですよということで教えていたりもしていますし、ビジネス支援にも力を入れています。暮らしや仕事に役立てていただくということで幅広いイベントをやっています。

④の調べ物、レファレンスと言いますが、これはなかなか専門的で広まっていないのですが、とても便利なもので、「こういうことを知りたいのですが」と司書に言うと「これとこれの資料に出ています」というように相当の資料を提供することができます。データベースを持っていますので、夏休みは特に子どもさんの宿題などで賑わうことではありますが、ビジネスなどにも使っていただきたいと思っております。

⑤のブックスタートでございますが、小さいうちから絵本に親しんでいただくということで、1歳誕生しか検診の後に、ボランティアがその子どもさんに本を読み聞かせて3種類あるうちの子どものさんが気に入った絵本をプレゼントするというもので、大体検診で泣いてくるお子さんがここで8割くらいが泣き止んでニコニコして帰って行かれるようです。

意外と思われるのが、学校図書館支援ということで、公共図書館に学校図書館支援センターというものがございまして、学校図書館の司書さんや学校図書館の資料の並べ方とかそういうもののアドバイスをするとすることで東区内の学校へも回っています。

図書館は、市民と共に成長する図書館を目指しておりまして、読み聞かせのボランティアさんとか書架整理のボランティアさん、そのたの整理のボランティアさんなどと連携しながら事業を進めております。皆様方には、図書館の多様なサービスをご利用いただいて学習や地域の問題解決にぜひお役立ていただきたいと思っております。

司会

ただいま、公民館と図書館の取組について説明させていただきましたが、今回は子どもの教育だけでなく、よりよい地域作りのためにというところです。そういう

点で、公民館、図書館、その他の社会教育施設などに「もう少しこういうことができるのではないのでしょうか」とか、「まだこういう課題があると思います」とか、「この取組は非常に成果が上がっています」といったお話をいただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

自治協委員

江川と申します。よろしくお願いいたします。

東区公民館の「地域コミュニティ活動活性化支援事業」のチラシを見せていただきまして、本当に様々な人材育成のための養成講座等々をやられているんだなと感じました。中でも教育長がお話しいただいた冊子の11ページにもありますけれども、地域の茶の間の学校ですが、これは公民館の活性化事業にもありましたが、地域の茶の間の立ち上げの連続講座ということで、昨年度5回の講座をやられていたようです。その中で公民館につきましては、人材育成のプロ、発掘のプロということで、私は社会福祉協議会の立場で自治協議会委員に出させていただいているのですが、地域のお茶の間につきましては、新潟市全体で524か所、東区内でも70か所、それぞれの自治会単位あるいはコミュニティ協議会単位で茶の間が開催されています。そこで、茶の間の学校を昨年度連続講座で開催されたわけですが、茶の間の学校を開催されるに当たり、社会福祉協議会といたしまして1講座だけ講義の時間ということでお話しただいて、させていただいたかとは思いますが、その後同窓会には出ていたかどうか把握していませんが、講座を、茶の間の数がこれだけ増えている中で、まだまだ足りないというのが現実なんです。茶の間の学校を開催するに当たって、公民館は社会福祉協議会など福祉の現場と一緒にあってつくり上げていく必要があるのではないかなと思います。人材育成の部分は社会教育、実際に茶の間が立ち上がったからのアフターフォローまで公民館がやってくれるのかということそこまでは手が回らないのではないかと考えておりますので、社会福祉協議会が立ち上がったからの支援なんかについては今70か所に寄り添って支援していますけれども、この講座を開催するときから福祉と教育と一緒にあって推進していければなというふうに思っております。

自治協委員

第2部会の山田です。よろしくお願いいたします。

私は木戸小学校のコーディネーターをしております。木戸小学校は、パートナーシップを長年、10年間やっておりますが、課題として公民館との連携が取りにくい、位置的にもちょうど石山公民館と中地区公民館との中間地点にありまして、行ってみようとは思いますがなかなか遠くていけないというので、それが課題でした。でも、今年度、石山公民館さんが学校に来てくださり、杉山先生からいろんなサークルがあるので声をかけて呼んでいただけないかという話がありました。そういうお願いの仕方もあるんだなと思ひまして、いくつかのサークル、オカリナとかハーモニカとか、バンドなんかにかに声がけをしていただきました。それで、オカリナコンサートをふれあいスクールの時に子どもたちに聞かせてもらい、木戸コミ協ではひまわりクラブ

も運営していますので、ひまわりクラブにもオカリナクラブの方から行ってもらいました。ふれあいスクールの時、聞かれていた自治会の方が、今度は敬老会の方でも演奏していただきました。いろんな所に来てもらうことができました。これからもこういう所から入っていきたいと思います。

ひまわりクラブなんですが、木戸では地域が運営していることによって、学校や地域とひまわりとの連携がすごく深くなっています。学校ボランティアも夏休みは

活動が少し少なくなるので、ひまわりの方にも顔を出してもらっています。ひまわりのスタッフには、民生児童委員さんや自治会やPTAの役員の方もいます。そういう人たちが一緒に子どもたちを見ることができます。そういう意味で、外のコミ協の皆様も、ひまわりの運営にもっと携わっていただけたらいいと思っています。

自治協委員

今の山田委員の発言に補足してなのですが、公民館、東区の図書館、本当にすばらしい活動をされていると思うのですが、中地区、石山地区という公民館の近くの学校、地域は、距離的な面もあるので比較的事業と一緒にしやすいという傾向があるかなと思います。ここでいうと大形や木戸という距離的に少し遠いというのがある、これまで活性化した事業が少なかったと思うのですが、そういう地区にもぜひ積極的に声がけをいただければありがたいと思います。図書館についてですが、大形地区の図書室も非常に貸し出し数が少ないという現状があるんですが、今公共の図書館が利用率が少ないとどんどん減らされているという傾向があるやに聞いております。大形地区の子どもさん、住民が大勢いますので、また読み聞かせ等でご支援をいただいて、大事な文化の発信源であり、学び舎になっていると思うので、今後とも縁遠い地域に対してもご支援をお願いしたいと思います。

司会

時間の方がだいぶ迫ってまいりました。2つ目の協議の視点につきまして、伊藤教育委員よりご発言をお願いいたします。

教育委員
(伊藤委員)

貴重なお時間、いろいろなお意見、ありがとうございました。私は、地域でいろいろなボランティアやいろいろな社会教育施設の図書館や北区郷土博物館の市民ボランティアなどを行っています。地域の魅力、東区も牡丹山のすばらしいものが出てきましたが、新しいものも学んでいきたいけれども、昔からどんな人たちがどうやってきたのかなという振り返る学びというのも大変興味があります。社会教育についてのまとめということでほんの少しお話いたします。

今ほど、公民館や図書館が遠いという話がありましたが、石山公民館から学校へのアプローチがあり、活動が広がってきたという大変すばらしい、興味深いお話もありました。図書館についても利用が少なくなると、という話もありましたが、よりよいサービスを引き出すというのは、私たち市民の責任だと思って、利用させてもらうからにはということで、図書館のボランティアを行っています。やればやるほどいただくことがあって、地元の学校でも読み聞かせをして19年になるのですが、子どもとの出会いを大切にやってきておりますけれども、お返ししよう、お返ししようと思っているのですが、まだいただく方が多くなっています。ボランティアで大事なことはというと

自己責任と自己満足です。ボランティアだからという甘えは捨てて、常によりよい活動になるように仲間と勉強会をしたり、自己満足というのは外の人に評価してもらうのも大事かもしれないんですが、自分で自分がやったことを満足できるということはすごく大事で、やらされているボランティアでなくて、やらせていただくボランティアという気持ちだよねというふうに仲間同士大変なときもありますが、細く長く一つの活動を続けているところです。

もう一つ西蒲区が担当ですが、西蒲区ですと西川図書館が基幹図書館なのですが、北区からバイパスを使って本を借りに行ったりとか、山の下図書館や石山図書館も利用しています。利用者としては心の距離を縮めるのは自分だなと思います。利用するほどにその図書館のよさとか、カウンター業務であれば、レファレンスという大事なサービスの充実があり、自分たちの活動にも大変役立っています。ですので、自分が去年担当した西区と江南区でも、とにかく図書館とか公民館とかをどんどん利用しましょう、活用しましょうということを宣伝させていただきましたが、利用者として自分も利用するのですが、それがよりよい社会教育施設にすることになるということを実感しているからです。今日も、中央図書館ほんぼ一との館長さんから、非常によりよいサポートをして今ということの情報提供がありました。皆様の心の中の各公民館や図書館への距離をどうぞ一歩ずつでも縮めていただければ、私が発言した意味があると思いますので、一緒に考えを出し合いながら、刺激し合いながら、また皆様の地域でのよい活動についてのお話をどんどん教えていただきたいですし、私もどんどん足を運びたいと思います。ウエルカム参観日ということで、小・中学校の活動等であちこちお邪魔する予定ですので、皆様もご一緒によるしかしたら足をお運びいただければと思います。本日は、ありがとうございました。

議 事

5 自治協議会会長挨拶

後藤でございます。一言ご挨拶させていただきます。

本日の教育ミーティングでは、前田教育長、伊藤教育委員、田中教育委員をはじめ、教育委員会事務局の皆様からご出席いただき、誠にありがとうございました。

前田教育長からは、今年度の教育委員会の施策について、丁寧な説明をいただきました。ありがとうございました。また、地区公民館や図書館の取組についても説明していただきました。

東区では、それぞれの地区で、地域と学校との連携が取れていると考えております。各校の「地域教育コーディネーター」がしっかり機能しており、どの学校においても、たくさんの地域のボランティアの皆さんが教育活動や登下校の見守りに参加しています。東区では「学・社・民の融合による教育」が日々展開されています。本日の教育ミーティングにおいてそれを確認することができましたし、いっそうの推進に向けて活発な意見交換ができたものと感じております。

東区自治協議会におきましても、各委員が自らの役割を考えて自覚し、知恵を出し合い、協働を深め、東区の宝であります子どもたちのために、これからもが

んばっていきたいと思っております。

本日は、皆様、大変ありがとうございました。

6 閉会